

ヤマネ

Glirulus japonicus (Schinz)
ネズミ目・ヤマネ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の生息情報は少なく、生息密度は低いと考えられる。ひそみ場所や繁殖場所となる樹洞の減少や餌となる昆虫が多数生息する自然林及び落葉広葉樹林の伐採等により、生息環境が悪化している。

種の特徴

国指定天然記念物。低山帯～亜高山帯の広葉樹林に生息する。果実や種子のほか昆虫もよく捕食する。夜行性で、主に樹上で活動し、日中は樹洞等で休息する。昆虫がいなくなる冬は冬眠する。繁殖は、春～秋に1～2回で、産子数はふつう3～6子。

分 布

日本固有種。本州、四国、九州のほか、隠岐島後に分布している。県内7市町で生息が確認されているが、生息情報は少ない。

生息を脅かす要因

繁殖やひそみ場所となる樹洞及び餌となる多くの昆虫が生息する自然林の伐採による生息域の縮小や分断が挙げられる。

参考文献 福井県（1998）、福井県（1999）、日高敏隆（1996）、阿部永（1994）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○						○	○					○	○	○	

カヤネズミ

Micromys minutus (Pallas)
ネズミ目・ネズミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息場所は局所的または限定的で、生息・繁殖場所となっている水田、休耕地、河川敷、湿地等にあるイネ科の高径草体は、土地改良事業や河川の護岸工事、土地開発により減少している。

種の特徴

頭胴長5～8cm、尾長6～8cm、体重7～14g程度で、ネズミ科の中では体サイズが最小の種である。イネ科植物の優占する草地、河川敷、堤防や水田等に生息する。

分 布

本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県及び石川県以南、四国、九州及び隠岐諸島、淡路島等に分布する。本県では、15市町で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

生息、繁殖場所となる水田、休耕地、河川敷、湖沼や湿地等において、イネ科の高径草体環境の土地改良、土地開発、河川湖沼の護岸工事等による消失が挙げられる。

参考文献 福井県（1998）、福井県（1999）、日高敏隆（1996）、阿部永（1994）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○

ホンドオコジョ

Mustela erminea nippon Cabrera
ネコ目・イタチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生息地は、1か所で情報はほとんどない。生息場所となる亜高山帯の環境は限定的であり、生息状況は不安定である。

種の特徴

山地帯上部～高山帯に生息する。夏は亜高山帯の岩場で活動するほか、低木の多い森林内でもみられる。鳥類やその卵、ネズミ類、昆虫等の小動物を捕食する。出産期は春で、樹洞や石のすき間等につくった巣で子を産む。

分 布

本州の中部以北に分布し、北海道には別亜種のエゾオコジョが分布する。本県では、勝山市北谷町で生息が確認されているだけである。

生息を脅かす要因

主な生息地である亜高山帯の環境変化が挙げられる。

参考文献 阿部永（1994）、福井県（1998）、福井県（1999）、大迫義人・角照美（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	